

お客様に安心を

さらなる安全対策への取り組み

東武鉄道では、伊勢崎線竹ノ塚駅構内第37号踏切道における事故を踏まえ、鉄道事業の根幹をなす安全を究極的に追求し、鉄道全般にわたる事故、災害、テロ、その他全ての危機管理に対応するため、鉄道事業本部内の各部を指導統括する「安全推進部」を設置しました。役員から社員一人ひとりまで、安全を最優先する安全意識の徹底を図ることを目的として、鉄道事故防止等安全推進委員会や現業長意見交換会などを活用し、安全に関する活発な議論を行って情報を共有化し、安全推進体制の充実を図っています。安全対策が確実に実施されていること、常に設備・システムおよび作業(マニュアル)などが点検され、かつ、継続して見直しが行われていることをチェックし、より安全性の高い鉄道をめざします。2005年度には安全対策に関する設備投資として約242億円を投じました。

踏切保安設備の整備

最優先課題として、全ての踏切に、踏切支障報知装置(踏切内に自動車等が立ち往生した場合に、列車に緊急事態を知らせる装置)を設置すべく、鋭意工事を進めています。2007年度には、小さな踏切も含め999箇所の全てに設置を完了する予定です。



手動押しボタン式踏切支障報知装置 自動式踏切支障報知装置

列車保安設備の整備

急曲線対応ATS

列車が急曲線に対する制限速度を超過して進入した際の脱線転覆事故を防止するため、「速度超過防止用ATS」を監督官庁指導による緊急整備箇所として10箇所と、当社独自の基準で整備する箇所として9箇所の合計19箇所に増設しました。

列車無線

列車無線には「防護無線」と「通話無線」があります。「防護無線」は、付近を走行する全列車に停止手配をとる強力な停止警報装置です。「通話無線」は、運転指令と乗務員間を結ぶ音声会話装置で、緊急時に威力を発揮します。両方とも、全列車に搭載済みです。

非常通報装置

お客様がホームから転落した際、列車を緊急停止させるためにホーム上に「非常通報ボタン」を、駅事務室等に「防護無線機」を、本線57駅、東上線25駅の合計82駅に設置しています。東武鉄道のものは、緊急時に駅係員または一般のお客様が非常通報ボタンを押下すると、上記「防護無線」と同じ停止警報を発信して、付近を走行する全列車を停止させるという仕組みのものです。また、竹ノ塚駅構内第37・38号踏切警備員と設置駅の一部駅係員には、この装置のリモコンも持たせており、これは東武鉄道独自のものです。



非常通報装置

脱線防止ガード

半径200m以下の線路曲線に設置が義務付けられているものですが、東武鉄道では従来より、半径250m未満の曲線および急勾配中の曲線や高架堤箇所等状況に応じて設置していたのを、2005年度にはさらに半径350m以下の曲線に対しても全てに設置しました。



耐震補強工事

線路の保安度向上

ロングレール化・弾性ポイント化などを行い、線路・分岐器の継ぎ目を減らすことにより保安度を向上させるとともに、乗り心地の改善や騒音・振動の低減を図っています。

改修・耐震補強工事

高架橋等の改修・耐震補強工事を実施しています。

立体化事業

踏切の立体化は、安全運転の確保とともに、交通渋滞の解消によって地域の活性化にも貢献することから、今後とも国・都道府県・沿線自治体等の街路事業に協力して積極的に進めてまいります。現在は、伊勢崎線太田駅付近延べ6.3kmにわたり高架化工事を行っており、17箇所の踏切を除却しました。



立体化事業

お年寄り、障がい者などのバリア解消

エレベーターや多機能トイレ等の新設により、人にやさしい駅をめざすほか、朝ラッシュ時間帯の女性専用車両の導入など、さまざまな配慮を心がけています。

バリアフリー化



エレベーター(和光市駅)

スロープ(大田駅)

自動停止装置付きエスカレーター(太田駅)



多機能トイレ(牛田駅)



非常通報器

8000系室内表示器

段差解消

車椅子をご利用のお客様などに駅を安心してご利用いただけるよう、エレベーターやスロープの新設による段差解消を進めています。

多機能トイレ

車椅子をご利用のお客様、小さなお子様をお連れのお客様などに安心してご利用いただける多機能トイレの新設を進めています。多機能トイレにはおむつ交換用のペーパーシートやオストメイトに配慮した器具などを設けています。

その他のバリアフリー化

目の不自由なお客様の駅構内誘導を目的とした誘導用ブロック・触知案内板・誘導チャイムの設置のほか、全券売機・手摺等に点字テープを設置しました。また、車椅子のお客様が安全に乗降できる渡り板の配置や車両内の車椅子スペースの設置、耳の不自由なお客様のために車両の出入り口上部に列車種別や停車駅などをお知らせするLED式の表示器を設置するなど、車両のバリアフリー化を進めています。

禁煙・分煙

たばこを吸われる方、吸われない方双方のお客様に快適な空間を提供するため、社会の情勢やさまざまなお客様のご意見・ご要望などを踏まえながら、2003年5月から全駅構内の完全禁煙化や、列車の禁煙車両の拡大を図り、2005年3月からは本線の特急列車の喫煙車両を1両のみとしました。

女性専用車両

2005年5月より伊勢崎線(館林以南)、日光線(南栗橋以南)、東上線(小川町以南)の速達列車において、朝のラッシュ時間帯に女性専用車両を導入し、女性や小学生以下のお客様の専用車両としてご利用いただいています。なお、女性専用車両を設定した列車は、その後6月には野田線、10月からは有楽町線直通列車、2006年3月からは日比谷線直通列車と順次拡張し、計276本となりました。

安全・安心な空間の構築

「こども110番の駅」として、子どもたちをやさしく見守る安心できる駅へ。

子どもたちの「SOS!」や「HELP!」の声にしっかり耳を傾け、手をさしのべる、そんなやさしい駅をめざします。

こども110番の駅

昨今、登下校時等に子どもが犯罪などの被害に会う機会が多発していることから、こうした危険から子どもを守るために、2006年4月1日より当社を含めた全国171の鉄道事業社局において「こども110番の駅」の取り組みを開始しました。当社においても無人・委託駅を除いた172の駅で「こども110番の駅」のステッカーを貼り、この取り組みを実施しています。このステッカーは子どもが助けを求めやすくするためのものですが、こうした取り組みを通して、地域の皆様により一層安心してご利用いただける駅づくりをめざしてまいります。

鉄道警察隊との協力体制

東武鉄道は、鉄道施設内の安全と治安維持を目的として、沿線警察署および鉄道警察隊と緊密に連絡をとりながら協力体制を築いています。最寄りの警察署との連絡体制の確立はもとより、鉄道警察隊と合同で痴漢犯罪防止キャンペーンや駅・電車内のマナーアップ作戦などを行っています。



© 2006 Gullane (Thomas) Limited
「こども110番の駅」のステッカー

環境負荷が小さく、快適な交通手段を提供し、地球環境と地域環境に貢献

鉄道は、より多くのお客様に、よりたくさんご利用いただくことで、社会全体のCO₂の発生抑制につながります。

快適にご利用していただけるよう混雑率の緩和に努力し、生活大国の目標を達成しました。

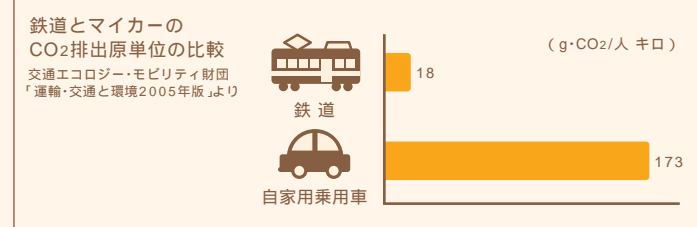
CO₂の削減効果

東武鉄道は、年間8億5千万人のお客様を、延べ125億5千万km輸送しています。平均すると1人1回14.8km(参考:北千住～蒲生間14.8km、池袋～朝霞間14.0km、大宮～春日部間15.2km)のご乗車で、これをCO₂換算しますと、266g・CO₂となります。同じ距離を自家用乗用車で移動した場合、2,560g・CO₂が排出されますので、鉄道を利用することによる削減量は2,294g・CO₂(約2kg・CO₂)に相当し、およそ90%の削減効果となります。仮に、当社のご利用分を全て自家用乗用車で移動した場合と比べると、年間で194万5千tのCO₂排出量の削減に貢献していることになります。

鉄道は環境にやさしい乗り物

鉄道の二酸化炭素排出量はマイカーと比べて約 $\frac{1}{10}$

1人のお客様を1km運ぶ際に発生する二酸化炭素の発生量を、輸送人キロあたりの二酸化炭素排出量(CO₂排出原単位)と言い、鉄道はマイカーの約1/10となっています。しかし、多くのお客様を運ぶためには大量の電力を使用し、資源の消費や廃棄物の発生も伴います。こうした環境負荷を少しでも減らすよう、東武鉄道では全社で環境に配慮した事業活動を推進しています。



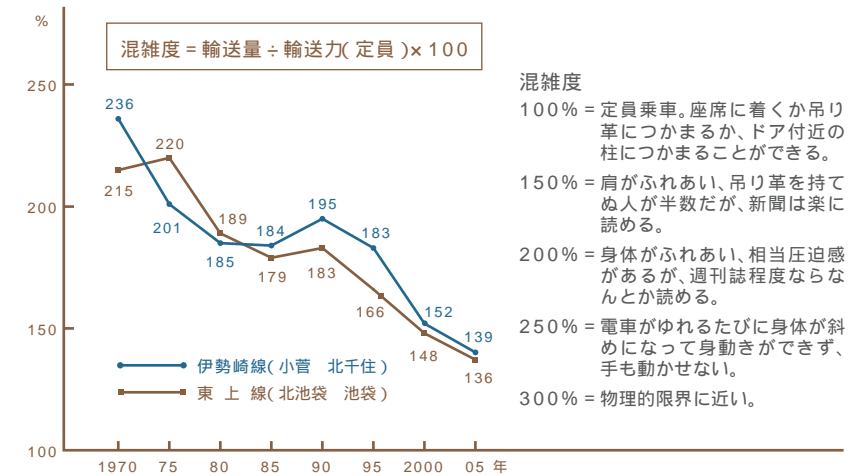
混雑率の緩和

生活大国(混雑率150%)の目標を達成

東武鉄道は首都圏の通勤通学輸送の一端を担っており、スムーズに、しかも快適にご利用いただくため、線路増設、列車の増発と長編成化、ターミナル駅の改良、他社線との相互直通運転などを進めてきました。その結果、朝のラッシュ時の混雑率は右のグラフのように改善され、生活大国の目標を達成しています。

主要口の混雑率(2005年度)

伊勢崎線	139%
東上線	136%
野田線 大宮口	137%
柏口	112%
船橋口	139%



北千住駅(改良前)



北千住駅(改良後)

アスベスト対策について

2005年10月1日に「東武グループ アスベスト対応基本方針」を制定し、吹付けのアスベストが露出している場合はシートで覆うなど緊急の飛散防止策をとり、その後、封じ込み・囲い込み・除去のいずれかの対策を実施することと決めました。

駅関係

203旅客駅の中に、駅舎やコンコース、ホーム上家などお客様がご利用されるスペースに、吹付けられたアスベストが露出している駅はありません。

鉄道車両関係

東武鉄道の車両(1,912両)に、吹付けアスベストを使用している車両はありません。

1987年以前製造の車両には、飛散性のある吹付けアスベストではありませんが、車体鋼板の内側(密閉されておりお客様に触れることはありません。)に塗るアンダーシール(防錆・断熱用の塗料で、飛散の可能性はありません。)に4.5%のアスベストが含有されていることから、廃車時の車両解体作業用に車両を丸ごと収容できる防塵・空調設備を完備した密閉施設を2006年度上期中に建設し、その処理および作業員の保護に万全を期すこととしています。

ビル事業・レジャー事業およびグループ各社関係

露出している吹付け耐火被覆の調査を進めており、アスベスト含有が確認されたものについては、法令に則り対策工事を実施しています。